

- ①意向・意見表明をしやすくなる（したくなる） → 多くの人が持っているスマホを活用、質問も簡素に
②属性による差異を把握する → 性別・年代等に応じたサンプル数を確保

1 回答しやすいツールは？



スマホで手軽に回答

- ・スマホでQRコードを読み込むこと等で簡単にサイトにアクセスできる
- ・回答数が少ないので、気軽に回答できる
- ・マイナンバーカードや個人QRコードの発行などで、電子住民投票も可能

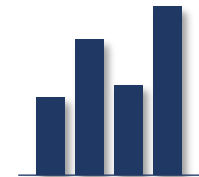
2 調査項目や方法は？



質問は簡素に、回答しやすい事柄を

- ・サイレント層の掘り起こしのため、質問は簡素にする
- ・項目数は回答したくなる範囲で設定
- ・調査対象の候補は、特別な知識や時間をかけて新たに勉強しなくても回答できる事柄

3 分析結果はどう使う？



属性ごとの差異等を分析して市政へ反映

- ・調査結果について、年代や性別、地域の差異や意見の違いなどを分析
- ・市が施策や事業を行う際に、分析結果を反映し、市民全体が納得する市政運営を目指す

※ 上記のような方法を用いて、どのような施策や事業について市民意向を確認するのか

※ 市民意向を把握するタイミングはいつなのか